

総合病院国保旭中央病院新改革プランの主な内容及び進捗状況評価表

達成度：計画達成＝○、ほぼ計画達成＝△、計画未達成＝×

評価項目		表題及び項目内容	令和元年度		自己評価		
大	中		目標値	実績値		達成度	達成度
化踏Ⅱ ま・ え地 た域 役医 割療 の構 明想 確を	標4 に・ 係医 る療 数機 値能 目等 標指	(1) 医療機能・医療品質に係わるもの					
		救急搬送応需率（管内指示を除く、%）	95.0以上	99.2	目標達成。	○	
		手術件数（件）	7,900件以上	8,417	目標達成。	○	
		(2)その他					
		患者満足度（%）（外來說明）	80.2以上	80.3	目標達成。	○	
		患者満足度（%）（入院説明）	89.2以上	91.2	目標達成。	○	
5. 住民の理解のための取組み		別紙1				○	
Ⅲ ・ 経営 の 効率 化に 係わ る計 画	1 ・ 経営 指標 に係 わる 数値 目標	(1) 収支改善に係わるもの					
		経常収支比率（%）	102.1	101.0	黒字を維持したが、目標値には達しなかった。	△	
		医業収支比率（%）	101.6	100.8	黒字を維持したが、目標値には達しなかった。	△	
		(2) 経費削減に係わるもの					
		材料費対営業収益比率（%）	25.3	29.1	高額な薬品、材料については診療報酬上の収入に計上されており、比率のみではなく、このような状況についても加味して評価してゆきたい。 （目標の比率は院外処方移行前の予測ベース）	△	
		100床当たりの職員数（人）	201.5	214.5	昨年度比正職員数ベースで医師20名を増員することができた。医療水準を向上させる職員を確保し、安定的な経営に継続して努めていきたい。	○	
		給与費対営業収益比率（%）	46.2	44.9	医師、看護師増加となり、より質の高い医療を提供できるよう努めたい。	○	
		(3) 収入確保に係わるもの					
		病床利用率（%）	90.0以上	95.9	目標達成。	○	
		平均在院日数（日）	13.0以下	13.6	目標未達。平均在院日数短縮に向け、継続して全病的に取り組んでいきたい。	△	
		入院単価（一般、円）	65,000円以上	72,832	目標達成。	○	
		外来単価（一般、円）	18,000円以上	22,418	目標達成。	○	
		(4) 経営の安定性に係わるもの					
		医師数（人）	257	273	昨年度より20名の増員を図ることができ、目標を大きく上回った。継続して医師確保に取り組んでいきたい。	○	
		看護師数（人、常勤換算）	859.2	944.1	目標を大きく上回った。	○	
		組具成3 体に・ 的向 なけ 標取 達	(1) 民間的経営手法の導入	別紙1			
(2) 事業規模・事業形態の見直し	別紙1					○	
(3) 経費削減・抑制対策	別紙1					○	
(4) 収入増加・確保対策	別紙1					○	
IV. 再編・ネットワーク化に係る計画		別紙1				○	
V. 経営形態の見直しに係る計画		別紙1				○	

	令和元年度		
	目標（当目標は平成28年度に策定されております。）	実績	達成度
5. 住民の理解のための取組	医療に関する専門分野の知識を活かした講座等の開催や住民からの講師の派遣依頼に対応するとともに、広報誌やホームページを通じて旭中央病院のおかれる救急体制と重症者優先の取組みに理解を求める。	市民健康講座を3回開催し、参加者約420名。健康づくり出前講座を11回開催し、参加者約460名だった。広報誌「こんにちほ」は4回（1号7,000部）発行した。外来担当表「インフォメーション」では「健康豆知識」コーナーを設けている。ホームページには医学関連情報や当院の広報誌を掲載している。	○
(1) 民間的経営手法の導入	地方独立行政法人化したことにより、従来に比べ予算の執行や、人員の配置に関して柔軟な対応が可能となったためこれらのメリットを活かし、新病院改革プランの目標を達成すべく経営に取り組む。	資金計画に基づき優先順位を付け価格交渉を行い順次購入。購入機器は当初見積額 1,293,559千円から 1,096,296千円97,462千円の削減となった。人員配置については総務人事課及び看護局に於いて適材適所を考慮の上、適正な配置を行なっている。	○
(2) 事業規模・事業形態の見直し	今年度より地方公営企業法の全部適用団体から地方独立行政法人となった。	平成28年度より地方独立行政法人に移行し、そのメリットを活かしながら全般に渡り経営努力した結果、引き続き黒字を維持することが出来た。	○
(3) 経費削減・抑制対策	① 後発医薬品の採用を促進し、患者の負担軽減と旭中央病院の費用節減に引き続き努める。 ② 業務委託については、毎年度検証を行い、費用と業務を適切に管理するよう引き続き努める。 ③ 薬品費、診療材料費その他の経費について、品目ごとの使用状況、調達状況等を適切に管理し、費用の節減に引き続き努めるとともに、同種・同効能・同機能製品については統一化について検討を新たに実施する。	①病院全体（外来と入院）の数量シェアは、全月90%以上を維持し、年度平均は91.5%だった。 ②予算計上された業務委託費の必要性を個々に精査し、その上で原則複数社の見積り合せ及び価格交渉を行った。当初見積額に対し137,656千円/年の削減となった。 ③薬事委員会に提案し削除した品目数は、31品目で継続して取り組んでいる。期末在庫金額に関する対前年度末比は、外来化学療法センターの抗がん剤使用増加に伴い2.4%増となったが、薬品費は、価格交渉により年間ベースで73,914千円の削減となった。診療材料（医療材料）については、見積合せ、価格交渉、同種同効品の切替、循環器領域の削減等を実施し、年間ベースで 55,164千円の削減となった。	○
(4) 収入増加・確保対策	① 効率的に高度な医療を提供するとともに、診療報酬改定等、制度や外部環境の変化に適切に対応できるよう医師、医事課等関係職員への研修会を引き続き開催し、常に適正な収入を確保するよう務める。 ② D P Cデータや評価係数の分析・検討を引き続き実施し必要に応じて適切な対策を講じて収入を確保する。	①新型コロナウイルスの影響で診療報酬改定等に関する内外の研修会の多くが中止となったが、一部の研修会を規模を縮小して開催するなどして対応した。部署内で情報共有を図り適正な保険請求が行えるよう努めていきたい。 ② D P Cデータや評価係数向上の分析・検討会を実施し、各種データ指数の向上策を実施した。結果、2020年度もDPC特定病院群を維持することが出来た。	○
IV. 再編・ネットワーク化に係る計画	旭中央病院では引き続き、高度急性期、急性期を中心に担い、その他の機能については地域の医療機関と緊密に連携を取り、相互に補完しながらシームレスなケアの提供を目指す。地域の医療機関との連携体制を強化するため、地域の医療関連施設等を対象とした「地域医療者懇談会」を平成25年度以降毎年開催し、相互に意見交換をする場を設けている。	地域医療者医師懇談会と介護等関係者も出席する地域医療連携懇談会を継続して開催し、地域医療機関との連携を推進している。平均在院数の短縮についても重点課題として取り組んでおり有効な対策等を検討している。近隣医療機関との更なる機能分化をすすめ、高度急性期・急性期を中心としたケアを提供できるようにしていきたい。	○
V. 経営形態の見直しに係る計画	地方独立行政法人化したことによるメリットを有効に活用し、医療の質、経営の質を高め、健全な経営の維持に努める。	平成28年4月より地方独立行政法人化したことにより、予算の複数年度化や職員定数等で経営の自由度が拡大した。これらのメリットを有効に活用し、中期計画や年度計画に基づき、業務改善、増収対策、経費節減等を行ない、医療の質、経営の質を高め、黒字を維持継続している。	○